

# 広報広聴特別委員会会議記録

【開催日時】 平成28年4月5日（火）  
午前10時4分～午前11時48分  
（休憩：午前11時4分～午前11時10分）

【開催場所】 第1委員会室

## 【出席委員】

委員 長	長谷川 知 司	副委員 長	河 野 朋 子
委員	大 井 淳一朗	委員	笹 木 慶 之
委員	下 瀬 俊 夫	委員	中 村 博 行
委員	矢 田 松 夫	委員	山 田 伸 幸
委員	吉 永 美 子		

【欠席委員】 なし

## 【委員外議員等】

議 長	尾 山 信 義	副 議 長	三 浦 英 統
-----	---------	-------	---------

## 【事務局出席者】

局 長	中 村 聡	局 次 長	清 水 保
書 記	原 川 寛 子		

## 【付議事項】

- 1 議会市民懇談会について
- 2 議会報告会のあり方について
- 3 その他

## 【議事の概要】

- 1 議会市民懇談会について
  - ・「埴生地区公共施設再編意見交換会」参加有志から議会市民懇談会の申込みがあった。前回と同じテーマで挙がっているので後日協議の上、取扱いを決定する。
- 2 議会報告会のあり方について
  - 議会報告会実施要綱を確認しながら今後の議会報告会について検討した。（意見）
    - ・審議結果を報告するだけでは市民のニーズに沿っていないのではないか。
    - ・テーマを設定して意見交換したり、ワークショップに近い形でやったらどうか。
    - ・議会報告会は市民の意識変化のためにやっているわけではなく、議会の最

低の説明責任を果たすためにやっている。

- ・一緒に政策提言をしたり、市民との意見交換やアンケート調査等で意向を調査した上で執行部に提言をしたり、いろんな方法がある。
- ・これまでやってきた総括がまず必要である。
- ・参加者を動員型にしないと議会報告会が成り立たないのが現状である。
- ・議会だよりと同じ内容を報告しても市民は興味がないのではないか。
- ・政策課題について市民と議論して、それを審議に生かしていく方向が求められている。
- ・議会が市民の前に出て行って、議決したことを説明するという画期的なことをまずやろうということで議会基本条例に規定した。定義と目的に沿ってできたのかきちんと整理したほうがいい。
- ・画期的なすごいことをやってきたという点で高く評価したほうがいい。
- ・議会報告会の継続を否定的に考えると後が大変である。
- ・他市でも人数が少ない、議案以外の要望や陳情が多くて対応が大変という課題がある。
- ・年4回6会場やっていることは一定の評価が得られるのではないか。
- ・議案の重要な部分についての一定の説明責任は果たしている。
- ・市民から出た意見を今後の予算の執行、運用につなげていくことも必要である。そういう成果を増やすためにどうするか考えないといけない。
- ・先進地では議会改革がほかの方面に発展している。
- ・委員会での審議が深まっておらず、市民にきちんと解明して伝えられていないのが、市民には不満なのではないか。
- ・議会報告会をすることによって、議会が気付かないことを教えてもらったことも多々ある。
- ・執行部が行う市政報告であれば的確に返事ができ、行政に反映できる。市民に議会報告会についての意見を求めたらどうか。
- ・審議過程をもっと説明することによって、市民が興味を持ち、報告会に来るかといえば現実にはそうっていない。
- ・現実を直視してなぜ来ないのかももう少し検討しないとけない。
- ・議会否定論の市民がほとんどだから、議会が何をしようが興味を示さない。市民との関係を変えない限りこの状況は続く。
- ・将来の課題等についてあらかじめ市民と意見交換したり、こちらから出掛けていくというアウトリーチ型にしたりといった変容が今後必要である。
- ・テーマを決めてやるとしても議会が終わってからでは間に合わないの、ある程度スパンを決めて内容を検討していかなければならない。
- ・今の実施要綱の範囲では柔軟に対応できてないのではないか。
- ・自己満足かもしれないが、委員会で協議することにより議案を振り返り、議員間で話し合えたことは意味があると思う。
- ・賛否が分かれるような議案は、議決せず継続審査とし、一旦延ばして市民の意見を聞くという報告会もいいのではないか。
- ・継続審査までする必要はなく、賛否が分かれそうな場合は議案提出前に委員会で所管事務調査を充実させ、情報を収集するほうがいいのではないか。

- ・自治会連合会との関係改善を行い、自治会との共同開催など協力依頼してはどうか。
- ・議会が市民のためにやっているという姿が見えないと議会と市民との関係は変わっていかない。議会だよりなどの情報発信が市民に伝わっているかといった調査が要るのではないか。
- ・市民モニターや議会アドバイザーに市民のニーズを聞く必要がある。
- ・市民の皆さんの意見が反映できるような方向に行けば、素晴らしいものになる。
- ・テーマを決めて議会報告会をするなら、担当委員会だけでなく議会全体のものなので、各テーブルに議員が着いて意見交換するのも必要である。
- ・6月については新たな取組をしたらどうか。
- ・6月と12月を政策的なものにするのならもう少し議論が必要である。
- ・文化会館でのイベントとコラボして、終了後に議会報告会に参加してもらうという流れを作ってもいいのではないか。
- ・これまでも6月は議案がなくても、所管事務調査などをしてきた。
- ・子育て支援も一つのテーマだと思う。児童館などお母さん方が集まりやすい場所を会場にしてもいいのではないか。
- ・高校生の女の子から地方創生に興味があり、地元議員と交流をしたいという話がある。
- ・公共交通の在り方について市民の声を聞く必要があるのではないか。
- ・高校生を議場に呼んでフリートークをするという市もあり、高校生との交流も必要ではないか。
- ・大学が市立になったので、大学との交流の機会ももったらどうか。
- ・議会の広報広聴に対するアンケート等も今後に生かすためやったほうがいい。

(結論)

今日は意見を出し合うことが目的なので、次回以降も在り方について検討していく。

平成28年(2016年)4月5日

広報広聴特別委員会委員長 長谷川 知司